

能動式義手の装着訓練期間について(協力医療機関調査結果)※労災以外の事例を含めて調査
 ※1医療機関については未回答

医療機関	標準的な装着訓練(週)(ア)			(ア)を超える場合		(ア)を超える場合		(ア)を超える場合		1原因を解消した場合の最大訓練時間(週)		
	片側上肢切断者		両上肢切断者	原因	期間	原因	期間	原因	期間	片側上肢切断者		
	前腕切断者	上腕切断者								前腕切断者	上腕切断者	両上肢切断者
A	実績なし	実績なし	実績なし									
B	2	実績なし	実績なし	ソケットの適合	3	断端痛の有無	3			5		
C	8	10	12~15	断端が未熟、脆弱な皮膚などの断端のトラブルのため、断端訓練に時間がかかる	4	健側上肢の骨折、下肢切断、高次脳機能障害など他の障害	4	心理的な問題	4	12	14	19
D	5.5	8~9	実績なし	断端部が細くなり、ソケットの調整に時間を要する	1~2	非切断四肢に先天性の麻痺があり、義手の装着に工夫が必要	1~2			7.5	11	
E	実績なし	実績なし	実績なし									
F	4~6	8~10	12	ハーネス装着による肩の痛み(肩関節周囲炎)	4~8					14	18	20
G	9	11	14	断端に筋力低下拘縮があると時間がかかる。	3	断端周径に変化があるとソケット適合に時間がかかる。	2	職業動作の作業内容に習熟度が必要な場合、時間がかかる。	2	12	14	17
H	6	8	実績なし	切断から義手訓練までの時間が経っていると筋力低下が大きいことがある。	2	非切断側にもROM制限があり、装着に時間がかかる。	2	断端部痛があり、ソケットの適合に時間がかかる。	2	8	10	
I	6~8	8~12	実績なし	断端の痛み、変形などによりソケットが適合できない。	2~4					12	16	
J	3	5	実績なし	ソケットとハーネスの調整	2					5	7	
平均値	5.94	9.29	13.67									
最小値	2	5	12					最小値		5	7	17
最大値	9	12	15					最大値		14	18	20

※平均値は、各医療機関の最大値を基に算出。

医療機関	通院する場合の対応	
	内容	時間等
A	実績なし	実績なし
B	日常動作訓練	できるだけ長時間装着するように指導
C	日常生活の中で実際に義手を使用し、義手使用の利点や問題点を明らかにする。	可能な限り毎日、装着時間もできるだけ長時間装着するように指示
D	毎日、1時間程度、義手を装着するよう、指導。両手の動作が必要な時に義手を使うように指導した。	できるだけ長時間装着するように指導
E	実績なし	実績なし
F	ADL練習、応用動作練習	毎日、1日2～4時間
G	日常生活動作や職業動作で実際使用していただく	毎日、1日あたり8時間
H	ADLでの使用	毎日、入浴、睡眠時以外は装着し、できるだけ使用するように指導。
I	実績なし	実績なし
J	※通院による装着訓練は実施していない。	※通院による装着訓練は実施していない。